

—名古屋高速道路公社—

名古屋高速道路の大規模修繕計画について

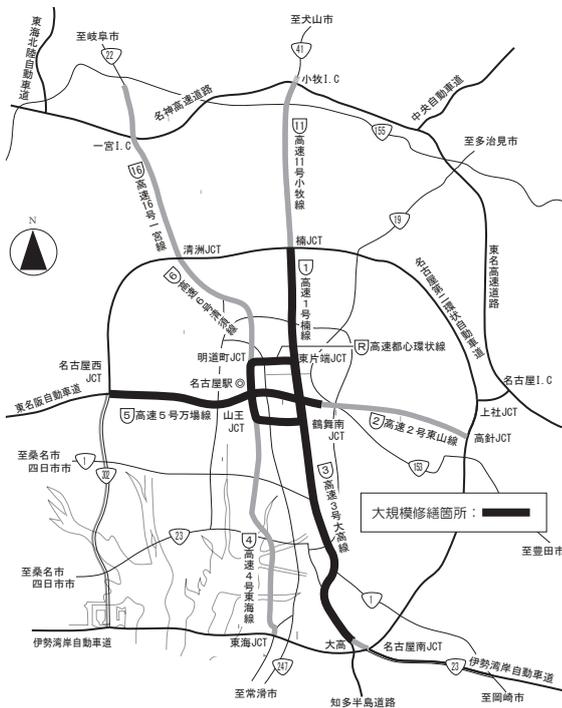
1. はじめに

名古屋高速道路公社（以下、「公社」という）は、平成26年3月に今後の維持管理のあり方について「名古屋高速道路の長期維持管理及び大規模修繕等に関する技術検討委員会」より、「橋梁の架け替えなどの更新を回避し、大規模な修繕等により構造物を長寿命化していく方向に進めていくべき」との提言を受けた。

この提言を踏まえ、名古屋高速道路の長期保全に向けた具体的な実施内容等について検討を進め、平成27年7月に「名古屋高速道路の大規模修繕計画」を策定し、鋭意、大規模修繕工事を推進しているところである。

2. 大規模修繕計画の概要

計画策定当時、名古屋高速道路は、昭和54年の



路線名	延長	概算工事費	事業実施予定年度
高速都心環状線	約37.9km	約1,250億円※	平成27～41年度
高速1号楠線			
高速2号東山線			
高速3号大高線			
高速5号万場線			

※概算工事費の他、別途諸経費が必要

大規模修繕の対象箇所

第一期供用から36年が経過しており、供用からの経過とともに構造物の損傷が顕在化してきていた。また、先行して建設された他の高速道路の事例から、古い基準で設計された構造物を中心として健全性の低下が明らかになってきており、公社においても今後、損傷が飛躍的に増加することが想定されたことから、主要構造物全体に対して計画的に大規模修繕を実施する必要があると考え、平成27年度より概ね15年間で大規模修繕に取り組む計画としている。



RC床版の損傷状況（左：上面、右：下面）

大規模修繕の具体的な対策として、コンクリート床版上面の高機能防水、コンクリート床版下面の繊維シート補強、伸縮装置の構造改良、桁端部の重防食塗装、コンクリート橋脚の表面保護等を実施する計画としている。

実施にあたっては、劣化の進行状況や対策目的、工事に伴う社会的影響、事業規模等を考慮し、路線ごとに優先順位を付けた実施スケジュールに則り、計画的な工事発注・施工を進めている。ただし、将来交通量の変化や構造物の劣化進行に変化があるなど、不確定な要素も多く含んでいるため、今後の実施スケジュールについては、点検結果による構造物の劣化進行の程度に合わせ、その都度見直しの必要性も検証しながら進めていくこととしている。

3. おわりに

公社では、大規模修繕計画の推進に向けて、実施状況等を検証しつつ、最新の知見に対応した対策に見直しながら、高耐久性や維持管理性を満足する新たな技術開発等を活用するとともにコスト縮減に努め、構造物の長寿命化を図っていき、今後とも「安全」「安心」「快適」な道路サービスを提供し、地域社会を支える名古屋高速を目指していく所存である。

（名古屋高速道路公社 経営企画部 企画課）